



はじめてとらきち君からの手紙を読む方へ、はじめ君とよう君は店長の孫です。多少の可愛いがりすぎは、お許し下さい。



はじめ君、この年にして(5歳)明太子が大好きです！先週九州小倉に出張があったので、お土産で明太子を買ってきてあげました。はじめ君用のは、当然無着色。明太子でご飯をペロっ一杯食べた後、次は明太子スパゲッティを食べたそうです(^_^)飲みすけになるだろうなあ(楽しみ(^_^)一緒に飲める)でも、最近ちよつと赤ちゃん返り…



よう君のハイハイは分速5mは行きます。速いわあ！しかも、つかまり立ちまでします。スクワット、10分くらいず〜とやってます。筋肉つけて、オリンピック目指して下さい。その頃、ジィ(ボク)は天国から、そこに行っちゃうかも知れないけど、メチャ応援します！頑張れえ！すみません、バカじいです…(^_^)v
ああ〜かわいいなあ(-_-)

2016年7月に厚生労働省から発表された、2015年における日本人の平均寿命は、男性が80.79歳、女性で87.05歳となりました。誤解しやすいですが「平均寿命」とは「各年における0歳児の平均余命」を指します。

例えば2015年の女性の平均寿命は87.05歳なので「2015年に生まれた女性は、社会情勢などの大きな変化がない限り、平均的に87.05歳まで生きられる」事を意味します。「2015年時点で亡くなった女性の平均年齢が87.05歳」ではありません。また「2015年時点で87歳の女性は、普通ならばこの一年間に亡くなってしまいうだろう」との意味でもないのです、お間違いないで…。しかも、平均余命で見ると、今80歳の方は、今後男性で8.89歳、女性で11.79歳生き続ける試算なのです。

ただ問題なのは、長生きは良いのですが、頭言葉に「元気で」が付かなくてははいけません！現状では、男性で9年、女性で13年、誰かのお世話になって生きているのです。そこには、生き延ばす医療があります。

オノドラの目標は「①血液の浄化②免疫力の向上③ミネラルの摂取④筋力の増強」つまり、健康でいることである血液を、いつもきれいにサラサラと流し、いつまでも自分の足で歩き、食べ、自分の力で治す力を高め、しっかりした栄養素をとり、転ばない体を維持するという事です。

2015年の国の予算は、96兆3620億円。税収は54兆5250億円(予算比▲36.8兆円)でした。そして、2015年10月に厚労省は2013年度の医療費が40兆610億円だったと発表しました。2015年度と比較しても、国家予算の42%、税収の73%にもなります。毎年40兆円もの赤字を作っていけば、この日本国は破綻目前です。

年間かかる40兆円の医療費国民一人当たりになると、31.7万円。また、65歳以上の高齢者になると、全体で23兆1112億円(57.7%)一人当たりでは、72.45万円。これに対し、65歳未満は17.77万円と4倍もの開きがあります。

オプジーボという新しい抗癌剤ができました。この治療を受けると一人年間3500万円もの治療費がかかります。高額医療制度によって患者負担はたった3%です。残りは税金で支払われます。3人に1人が癌になると言われている昨今、仮に1万人のがん患者が、この治療を希望したらどうなるのでしょうか？また、この治療を平均余命を過ぎた100歳を超えた患者にも適用しているといえます。最近では、1錠7万円もするC型肝炎の薬もできました。

今の医療のおかしいところは、患者を診ているのではなく、経営=儲けに走っているところにあります。ボクのおじさんは埼玉にある大学病院で、肝臓癌で亡くなりました。意識もない彼に対し、0.1cc7万円もする点滴抗癌剤を死ぬまで打ち続けました。相模原にある大病院も標準治療(手術・抗癌剤・放射線)を拒否した患者さんに「うちは会社だから経営方針に従えない患者は、二度と来るな」と言われたそうです。基準値は20歳の人を基準にしています。血圧の基準値は20歳の人でも80歳の人と同じだから。ボクは先月号の松本医師と同様、年と共に血圧は上がっていかなくてははいけないと思っています。血管も年と共に老化(動脈硬化)して硬くなっていくのだから、血圧だけ20歳に戻せば必ず弊害が出ます(脳梗塞・心筋梗塞・認知症等)他の病気を作ります。

オノドラの患者さんがこの話をかけりつけの医者にしたそうです。その答えは「国が決めた基準だから」と…「じゃあ」と突っ込みたくなる回答です。それでは、ご自身の血圧が140になったら、降圧剤を飲むのでしょうか?でも、お医者さんも決められたガイドラインに沿って治療をしないと、何かあったとき訴えられでもしたら大変ですから…制度が悪いんです。だから、医師に丸投げしないで賢くなりましょう!

ガン治療で何をやって標準治療というか理解できませんが、未だかつて抗癌剤をお試しに受けた医師は一人もいませんし、胃瘻(栄養を直接胃に送り込む)をしている医師も聞いたことがありません。

子供や孫の代にできるだけ負債を残さないために、余計な治療、特に延命治療をしないと決めませんか?60歳を過ぎたら「エンディングノート」を作りましょうとお勧めしています。無料の良い冊子があります。「おひとりさまでもだいじょうぶノート」その第2章には、「もしもの為の心の準備と私の希望」のところがああります。

「将来、自分が最後を迎えようとする時、どのような状態で迎えるのかは誰にも分かりません。もし、自分が治らない病気で入院した場合を想定して書きましょう」とあり、病名の全てを告知して貰いたい。病名によっては、告知して貰いたくない。病名の告知は一切不要です。尊厳死を望みます。尊厳死を望みません。可能な限り延命治療を行って欲しい。ホスピスの緩和ケアをお願いしたい。●どのような場所で最後を迎えたいか?自宅子供の家一般病棟ホスピス(緩和ケア病棟)その他の項があります。ボクはもちろん、尊厳死、自宅にチェックです。冊子の見本あります。毎日楽しく笑って過ごしましょうネ!



「おひとりさまでもだいじょうぶノート」申込先 →
ハガキからお申込みされる方は、以下の必要事項をご記入の上、お申込みください。
●郵便番号 ●ご住所 ●お名前 ●ご年齢 ●性別 ●お電話番号 ●ご希望冊数(1・2冊)
〒143-0011 東京都大田区大森本町2-4-22 おひとりさまでもだいじょうぶノート。
プレゼント係 ネットから → <http://www.keepers.jp/ending-note/>